Q 私の遺族厚生年金にはなぜ加算が付いていないのですか。

A 遺族厚生年金は、①在職中に死亡したとき、②退職者が在職中に初診日がある病気等により、その初診日から5年以内に死亡したとき、③一級又は二級の障害厚生年金の受給者が死亡したとき、④老齢厚生年金の受給者、又は老齢厚生年金の受給資格を満たしている人が死亡したときに、その人の遺族に支給されます。加算が付く第一の条件は、①から③に該当することです。④の場合は厚生年金加入期間20年以上ないと加算は付きません。

(65歳前に遺族になった場合)

加算が付く第一の条件を満たし、かつ夫が死亡したとき妻の年齢が40歳以上か、40歳未満であっても、子が18歳年度末に達し遺族基礎年金が失権したとき、妻の年齢が40歳以上の場合、年額57万9700円の加算が付きます。(これを中高齢寡婦加算と言います)中高齢寡婦加算を受けている人が65歳に達すると、老齢基礎年金が支給されるので、加算額は大幅に減額されます。今年65歳になる妻は年額13万5300円の加算額(これを経過的寡婦加算と呼びます)となり、年額44万4400円の減少となります。

(65歳過ぎに遺族になった場合)

65歳過ぎに遺族になった妻は、夫の加算が付く第一の条件を満たしていれば、経過的寡婦加算を受給できます。この場合は、妻の年齢の制限はありません。

(年金相談室 小林善雄)